

日本の トップランナー企業

日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

5月30日 木曜日

2024年(令和6年)

マツムラ

特殊溶接の現場で培った技術や 経験を生かして中小製造業を支援

マツムラ(大阪府中央区)は半導体製造装置部品の特殊溶接や、合金表面に新しい機能を付与する表面改質溶接(肉盛り溶接)などを得意とする加工メーカー。溶接だけでなく、精密機械加工も請け負うことで、顧客の幅広い要望にこたえ、コストダウンにつながる溶接部の設計や加工方法などの提案も積極的に行う。親子三代で継承してきた溶接のプロとしての技術や経験をベースに、5年前からは製造業専門の人材派遣・紹介事業を本格的に展開。さらに、ものづくり企業のビジネスマッチングのサポートや若手経営者の育成を目的とした一般社団法人日本ものづくり支援機構(同)を立ち上げ、中小製造業の活性化に向けた取り組みにも力を入れる。



▲松村和也社長

プロとして 常に提案



▲日本ものづくり支援機構の勉強会

「顧客から『この図面』と言われても、そのまま製造を引き受けることはほとんどない。溶接、機械加工双方の利点・欠点を熟知し、どの工程でどんな不合理が起きているか、作業者にどれだけ負担が生じるかも分かるのだから、コストダウンや製品の設計変更だけではなく、製造工程の見直しにまで踏み込んだ提案を常に行っている」と語るのは同社の松村和也社長。

主力の半導体製造装置向け部品は、直径数ミから40ミ程度の円筒形の特殊溶接を手がけている。元々、1980年代半ばに松村社長

人材派遣業に 進出

祖父の代から耐摩耗性や耐酸化性に優れるステンライト合金の肉盛り溶接など、高強度材の溶接を得意とし、1990年代後半からは機械加工分野に進出して事業領域を広げた。松村社長は入社後、20年弱、溶接職人として

腕を磨き、和夫氏が現場から引退した2008年以降は事実上のトップとして、経営の呼び取りを担ってきた。積極的に設備投資も行った。複合加工機やマシニングセンターなどの工作機械をそろえ、溶接、切削加工、旋盤加工、マシニング加工、バリ取り、洗浄までの一貫生産体制を整えているのも強みだ。

18年には、製造業に特化した人材派遣・紹介サービス事業を本格的に開始した。製造業とは異なり、形がないサービスを提供することに当初は抵抗やとも

海外受注 目指し連携

現在、松村社長は一般社団法人日本ものづくり支援機構の代表理事を務める。同機構は2021年設立。関西を中心に北陸、関東の約40社のこれからの事業承を控える若手経営者が参加している。和夫氏はマツムラの経営を息子の和也氏に任せると決めた翌日からあえて出社せず、一切経営に関わることはなかった。それまで、松村社長は溶接職人としての技術は身に付けていたものの、営業や経理、人事など製造現場以外の経験は全くなかった。以降、独力で経営を学び、会社を展覧させてきた。勉強会を通じて、その経験を同機構メンバーに伝えるほか、受注先や発注先、業務提携先を見つけた企業とのマッチングをサポートなども行っている。

さらに24年2月からは海外から自動溶接機などの加工設備の設計・製作や、それに付随する製品の受注などを同機構として請け負おうと、海外向けランディングページによるPR活動も始めた。すでにベトナム、フィリピン、モルディブなどから問い合わせが舞い込んでいるという。「機構メンバーそれぞれの強みを持ち寄り加工設備を作り上げたり、ワンストップでほしい製品がすべてそろったところまでサポートできることができた。以降、独力で経営を学び、会社を展覧させてきた。勉強会を通じて、その経験を同機構メンバーに伝えるほか、受注先や発注先、業務提携先を見つけた企業とのマッチングをサポートなども行っている。」



▶自社開発の自動溶接機



株式会社マツムラ



一般社団法人
日本ものづくり支援機構

<https://www.matsumura-weld.co.jp/>

<https://jmsom.com/>